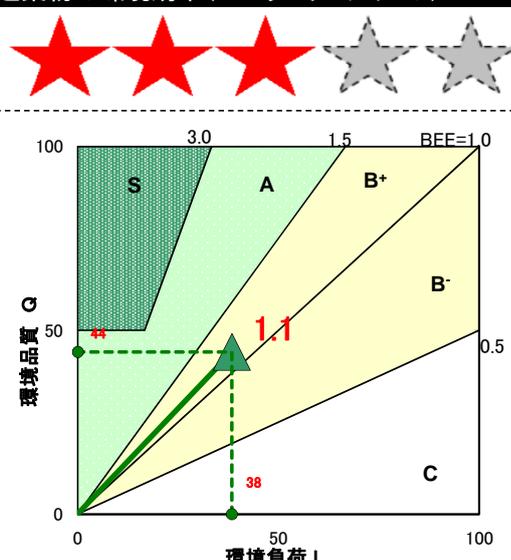


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	本田技研工業KK熊本製作所HGA-K	階数	地上2F		
建設地	熊本県菊池郡大津町大字平川1500	構造	S造		
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	60人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年5月16日		
敷地面積	1,618,803 m ²	作成者			
建築面積	1,999 m ²	確認日	2014年5月19日		
延床面積	3,936 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.1

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

91%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

75

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

85.7

61.6

60.7

81.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

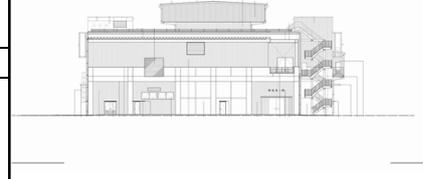
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®] 熊本 《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■ 使用評価マニュアル：CASBEE-新築 (標準版) 2010年改訂版Ver.2 (BPU/BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本田技研工業KK熊本製作所HGA-1	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池郡大津町大字平川1500	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年5月16日
敷地面積	1,618,803 m ²	作成者	
建築面積	1,999 m ²	確認日	2014年5月19日
延床面積	3,936 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 91%
③上記+②以外の 91%
④上記+ 91%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 86**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 62**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 61**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 81**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応)

本田技研工業KK熊本製作所HGA-K新テスト棟増築工事 欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1	室内騒音レベル	-	-	-	-	-	-	-
2	設備騒音対策	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音								
1	開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1	室温	-	-	-	-	-	-	-
2	負荷変動・過渡制御性	-	-	-	-	-	-	-
3	外皮性能	-	-	-	-	-	-	-
4	ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-	-
5	温度・湿度制御	-	-	-	-	-	-	-
6	種別制御	-	-	-	-	-	-	-
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-	-	-	-
8	監視システム	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1	昼光率	-	-	-	-	-	-	-
2	方位別開口	-	-	-	-	-	-	-
3	昼光利用設備	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策								
1	照明器具のグレア	-	-	-	-	-	-	-
2	昼光制御	-	-	-	-	-	-	-
3	眩り込み対策	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1	化学汚染物質	-	-	-	-	-	-	-
2	アスベスト対策	-	-	-	-	-	-	-
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-	-	-	-
4	レジオネラ対策	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気								
1	換気量	-	-	-	-	-	-	-
2	自然換気性能	-	-	-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	3.0	-	-
4	給気計画	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理								
1	CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能			0.43					3.4
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1	広さ・収納性	-	-	-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性								
1	広さ感・景観	-	-	-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-	-
3	内装計画	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-
3	衛生管理業務	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.1 耐震性								
1	耐震性	3.0	0.48	-	-	-	-	-
2	免震・制振性能	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.2 躯体材料の耐用年数								
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.0	0.23	-	-	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.09	-	-	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-	-	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.15	-	-	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-	-	-	-	-

給水・排水でB使用、E不使用

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	配管系統の区分、井水利用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.48	-	3.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	平均階高: 6.2m	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	(1階)比率: 0.09	5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる(天井点検)	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる(天井点検口)	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース計画	4.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率機器の採用	4.0	0.43	-	4.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0		-	
		集合住宅の評価	3.0		-	
4 効率的運用			3.5	0.29	-	3.5
4.1	モニタリング	各種エネルギー量を把握	4.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.3
1 水資源保護			2.8	0.15	-	2.8
1.1 節水			1.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	工業用水利用	4.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン	3.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	RC打放、軽天・軽間(躯体と仕上分別)	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム(ノンフロン)	5.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		高効率機器の採用	3.3	0.33	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2.1	大気汚染防止	汚染物質なし	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	敷地内に駐輪・駐車スペース確保	4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外屋内照明影響なし	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・工場立地法に基づいた設計。
- ・既存施設と調和の取れた設計。

Q1 室内環境

対象外

Q2 サービス性能

- ・井水を利用し、施設の機能維持に配慮した。
- ・配管類については、メンテナンスを考慮した管材とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内にある既存の建物と調和のとれた外観とした。
- ・設備機械類は屋上に設置し、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

- ・敷地内にある既存工場に太陽光発電、またガス発電設備を取り込んでいる。

LR2 資源・マテリアル

- ・再生クラッシュランを使用。

LR3 敷地外環境

- ・敷地境界付近に中高木を植樹しており、周辺環境への影響に配慮している。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 本田技研工業KK熊本製作所HGA-K新テスト棟増築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		74.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85.7	0.40	34.28
Q1-2.1.3	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.6	0.20	12.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60.7	0.20	12.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	1.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				81	0.20	16.20
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数